

下 拂 時 臨				下 拂 季 年				用 使 及 渡 貸				同 料 金 子 地 方 税 ニ 組 入 ル ヘ キ 分 (區 町 村 費 ニ 組 入 ル ヘ キ 分 モ 之 ニ 徴 フ)		
合 計	何 々	枯 損 木 (竹)	立 木 (竹)	合 計	何 々	櫨 (椶) 實	桑 (茶) 葉 (楮)	合 計	堤 塘 使 用 料	計	何 々 地		溝 渠	並 木 敷

總 計	入 雜				下 拂 時										
	合 計	後 追 納	貸 渡 地 料 年 度	度 拂 後 追 納 年 度	盜 伐 金 木	合 計	何 々	運 根	雜 草 (水 草)	櫨 (椶) 實	桑 (茶) 葉 (楮)	石	枯 損 木 (竹)	立 木 (竹)	計

號三十六第

公使館					類目	
居	館	使	館	公	類目	
地金	地洋	地紙	地銀	地金	地料	
坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪貨	坪金	
						前々ヨリ貸下
						本年度貸下(時收入)
						合計

外國人貸地收入未收入 (明治 年度)

收入ノ部 普通所有地ニ屬スル分

應 名

總計	入 雜			下拂時	
	合計	度拂下 後追納	後追納 年度	合計	枯損木(竹)

臨	下 拂			渡 貸		
	合計	何々地	舊郡役所敷	合計	何々地	舊警察署敷
桑(茶)葉(楮)						

同 地方税經濟ニ屬スル分

總計	入 雜		
	合計	度拂下 後追納	後追納 年度

競	類目 指令又ハ届出年月日	居留地手ノ分 (海岸居留地雜居地等亦之ニ做フ)	返				渡				類目 指令又ハ届出年月日	居留地岸ノ分 (山手居留地雜居地等亦之ニ做フ)											
			地		合		地		合														
			計			計						地	番	號	地	坪	百	坪	當	競	貸	元	金

報 年

收入ノ部内譯	計 合												代 貸 競			地 居 雜				地 留	
	地紙	地壹	地銀	地金	地洋	地紙	地銀	地洋	地紙	地銀	地金	地洋	地壹	地銀							
	坪幣	坪銀	坪貨	坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪銀	坪幣	坪貨	坪貨	坪銀	坪銀	坪貨							

貸
合
計

未收入ノ部 普通官有地ニ属スル分

居留地海ノ分 (山手居留地及ヒ親貸等各別項ニ取調フヘシ)

指令又ハ届出年月日	地番	地	坪	洋	銀	事	由
合計							

第六十四號

神社并神官 (明治年)

廳名

國種	府社	縣社	村社	無格社	無格社	遙拜所	招魂社	祖靈社
境外	境内	境内	境内	境内	境内	境内	境内	境内

年報

國 某		國 某	
現在	神末	現在	神末
合	計	合	計
社	神	社	神
廢	再	廢	再
再	創	再	創
興	年	興	年
復	末	復	末
舊	在	舊	在
立	現	立	現
社	在	社	在
掌	官	掌	官
官	掌	官	掌

一創立再興復舊廢社ハ本年中ノ員數ヲ掲クヘシ

但再興トハ曾テ廢セシモノヲ再ヒ建設スルヲ云ヒ復舊トハ曾テ合併セシモノヲ再ヒ舊ニ復シ獨立シタルノ類ヲ云フ

一神社並ニ遙拜所招魂社祖靈社ハ公許共有ニ属スルモノ、ミナ記載スヘシ

但建物無之遙拜所並ニ官祭ノ招魂社ハ記載ニ及ハス

一神宮官國幣社ハ表中ニ掲クルニ及ハスト雖モ其攝末社ノ社格アルモノハ社格ニ依リ各欄内ヘ記載シ社格無之向ハ境内外ヲ以テ之ヲ分チ各欄内ヘ記載スヘシ

但府縣社以下ノ攝末社モ本條ニ準ス

報年		號六十六第				社寺官有地境内木竹伐採數 (明治年)	廳名			
某國	某國	種	類	造修伐	障礙伐			枯損伐	盜私伐	合計
同	同	同	同	同	同	同	同	同		

一寺院并ニ佛堂ハ公許共有ニ属スルモノヲ記載スヘシ其他記載方ハ前表ニ同シ
 但佛堂ハ山野路傍并ニ人民邸内ニアツテ一寺ニ列セサルモノヲ云フ
 一再興復舊ノ記載方ハ前表ニ同シ
 一副住職及他ヨリ住職兼務ノ者ハ算入ニ及ハス

報年		號五十六第				寺院佛堂并住職 (明治年)	廳名													
某國	某國	種	類	天台	真言			淨土	臨濟	曹洞	黃檗	眞	日蓮	時	融	念	佛	通	合計	境外
合	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	

一神社ノ内三四字ニテ一社號ナル者或ハ一字ニシテ數社號アル者ハ總テ一社ト算スヘシ
 但一字ニシテ一社號アリ而テ一ハ郷社一ハ村社ノ類ナル時ハ郷社ノ欄内ヘノミ記載スヘシ
 一神官ノ内他社ヨリ兼務ノ者ハ現員中ニ算入セス

國	境外佛堂	同	同						
合	計	同	同						

一 造修伐トハ社殿堂宇ヲ造營修繕ノ爲メ府縣廳ノ許可ヲ經テ伐採スルモノヲ云フ

一 障礙伐トハ電線又ハ道路ヲ妨クル等ニ因リ伐採スルヲ云フ

一 枯損伐トハ朽枯風損等ニ因リ伐採スルヲ云フ

一 盜私伐トハ其筋ノ許可ヲ經スシテ擅伐スルモノ若クハ其所有ニ屬セサルモノヲ盜伐スルノ類ヲ云フ

○内務報告例目中追加

二十年一月二十七日
内務省訓令第五號
府縣廳府縣廳兵本部集治監假留監

自今新ニ發スル所ノ省令訓令中ニ於テ期限ヲ定メ報告ヲ要スル旨ヲ記載シタルトキハ其報告ノ種類ニ依リ同時内務報告例目中ニ追加シタル儀ト心得ヘシ

○官國幣社ヨリ稟申報告ヲ廢シ地方廳ニ受理報告

二十年三月二十五日
内務省訓令第十九號
北海道廳府廳(沖繩縣ヲ除ク)

官國幣社ヨリ常省ヘノ稟申及報告之儀本年三月限り相廢ス同年四月以降ハ渾テ其地方廳ニ於テ受理シ左ノ件々ハ當省ヘ報告スヘシ

即報

國幣社例祭異動

風火災

盜難

官司死去

官司除服

半年報

保存金受拂精算

(自四月至九月)(四月二十日發送)
(自十月至三月)

社入金受拂精算

同

非常豫備金並蓄積金異動

同

○華族世襲財產法

十九年四月二十九日布告
勅令第三十四號

朕華族世襲財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月廿八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十四號

華族世襲財產法

第一條 華族戶主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戶主ノ遺言アルトキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得

第二條 世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス

第三條 世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ

世襲財產ト爲スコトヲ得

第一類 田畑山林宅地鹽田牧場池沼等

第二類 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ

會社ノ株券

第四條 世襲財産ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財産タルヘシ但其財産中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ
第五條 世襲財産ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ建物庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財産附屬物ト爲スコトヲ得

第六條 負債償却ノ義務アル財産ハ世襲財産及ヒ附屬物ト爲スコトヲ得ス

第七條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ其財産ヲ増加スルコトヲ得

第八條 世襲財産ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ第二類ノ財産ヲ更換シテ第一類ノ財産ト爲スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財産若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條 第二類ノ財産其元金ノ任拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類ノ財産ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財産ノ所有者ハ其財産ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得但毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條 世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

一 戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ
一 爵ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ
一 第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條 世襲財産及ヒ附屬物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條 華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條 世襲財産ヲ創設増加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ掲ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ第一類ノ財産ハ所轄ノ地方廳ニ命シ地券臺帳ニ記入セシメ地方廳ハ戸長ニ命シ公證簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ

華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財產ト爲リタル旨ヲ記入スヘシ

第二十二條 世襲財產其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

世襲財產附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十三條 第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財產所有者ヨリ之ヲ華族局ニ納ムヘシ

第二十四條 世襲財產ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條 世襲財產ニ關スル願書屆書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條 此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百四十八章 氣象臺測候所條例

二十年八月八日布告 勅令第四十一號

朕氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年八月三日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第四十一號

氣象臺測候所條例

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ內務大臣之ヲ指定ス

第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 中央氣象臺ハ內務大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ內務大臣之ヲ監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス

第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

第五條 中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脉ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

○氣象臺測候所條例施行細則

二十年八月十日 內務省令第一號

氣象臺測候所條例施行細則

氣象臺測候所條例施行細則

第一條 中央氣象臺ハ各地ノ氣象觀測報告ヲ聚閱公布シ及其器械ヲ檢閲シ港津及全國

ニ天氣豫報ヲナシ且氣中ノ現象ヲ調査スル所トナス

第二條 測候所ハ分テ一等二等三等トナス

一等測候所ハ所在地ノ氣壓氣温日温地温濕度風雲雨雪蒸發等ヲ觀測スル所トス其觀

二十一年十月十日 內務省令第一號

測ハ各種ノ自記器械ヲ備ルニアラサレハ必毎時ノ觀測ヲ行フモノトス
二等測候所ハ所在地ノ普通氣象即チ氣壓溫度濕度風雲雨雪等ヲ一日七回ノ觀測ヲナス所トス

三等測候所ハ所在地ノ普通氣象中一若クハ二三ノ主ナルモノヲ一日一回以上ノ觀測ヲナス所トス

第三條 溫度ハ攝氏ノ度ヲ用ヒ尺度ハ「メートル」ヲ用フ可シ但所用器械ノ度目異ナルモノト雖モ報告書ニ記載スル所ハ必ス本條ノ度目ニ更正シタルモノタル可シ

第四條 時刻ハ標準時ヲ用フ可シ但明治二十年十二月三十一日迄ハ京都時ヲ用フ可シ
第五條 觀測ハ分テ定時臨時ノ二類トナス其時刻ハ左ノ如シ

定時觀測

一等測候所 自記器械ヲ備ヘサルモノハ每一時合二十四回自記器械ヲ備フルモノ

ハ午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

二等測候所 午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回

三等測候所 器械ノ種類及多少ニ依リ一定セスト雖モ毎日午前十時一回若クハ午

前十時午後十時合二回若クハ午前六時或ハ十時午後二時十時合三回

臨時觀測

中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受タル時及暴風雨急襲地震續起等ノ際ニ於テハ每十分時每半時每一時各一回

第六條 報告ハ分テ定期臨時ノ二類トナス其種類及期限ハ左ノ如シ

中央氣象臺

定期報

每日三回

天氣豫報及天氣圖 午前八時午後四時及十一時内外

每月一回

氣候概況 翌月三日以内 氣象月報 翌月三十日以内

地震月報 翌月卅日以内 磁氣月報 同上

電氣月報 同上

每年一回

氣象概況 翌年一月三十一日以内 氣象略報 翌年三月十五日以内

氣象年報 翌年三月三十一日以内 地震年報 同上

磁氣年報 同上 電氣年報 同上

一週年事務報告 翌年一月三十一日以内

臨時報

暴風警報 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタル時

暴風雨概況 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内

暴風雨報告 暴風ノ終リタル日ヨリ三十日以内

雜報 不定

測候所

定期報

每五日一回

氣象半旬報 二十四時間以內

每月一回

氣象月報 翌月三日以內

每年一回

氣象年報 翌年一月三十一日以內

一週年事務報告 同上

但三等測候所ハ半旬報萬國同時觀測月報及一週年事務報告ヲ要セス

臨時報

暴風報告 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以內

地震報告 地震ノ終リタル時ヨリ二十四時間以內

動物報告 翌月五日以內

植物報告 同上

第七條 特ニ電信報告ヲ發スル測候所ハ前條ノ外中央氣象臺ニ對シ左ノ電報ヲナスモノトス

定期報

每日三回

臨時報

午前六時午後二時及九時觀測 觀測ヲ終リタルトキヨリ十分以內

暴風ノ徵候 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタルトキ

第八條 中央氣象臺ノ報告ハ或ハ官報ヲ用ヒ或ハ直ニ測候所ニ遞送ス測候所ノ報告ハ總テ中央氣象臺ニ遞送スル者トス

第九條 報告書式ハ中央氣象臺ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定ル所ニ依ル

第十條 中央氣象臺ハ五年以內ニ一回技師ヲシテ各測候所ヲ巡閱セシム

第十一條 內務大臣ハ地方長官ニ命シテ各測候所長ヲ中央氣象臺ニ參集シ事務及ヒ技師上ノ會議ヲ開カシムルコトアル可シ但各測候所長ノ旅費及滞在日當ハ其測候所ノ費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第十二條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

第一 測候所ノ種類

第二 設立ノ位置及地勢地形及測候所ノ略圖ヲ添フ可シ

第三 創立費及維持費ノ額及其支出方法

第四 職員ノ數及俸給

第十三條 內務大臣新ニ測候所ノ設立ヲ許可セハ官報ニ載セテ之ヲ全國ニ告示ス可シ

第十四條 町村又ハ人民ニ於テ新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立セント欲スルト

キハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第十五條 地方長官新ニ暴風標及ヒ天氣豫報揭示場ヲ設立シ及ヒ其設立ヲ許可セハ少クモ實施ヨリ三十日前地理局ニ報知ス可シ但暴風標ノ位置ハ畧圖ヲ添フ可シ

第十六條 地理局ハ暴風標及天氣豫報揭示場ノ開設ヲ全國ニ公告ス可シ

第十七條 北海道沖繩縣ニ在リテハ本條例第四條ニ基キ該道縣ノ地方費ヲ以テ測候所ノ費用ヲ支辨ス可シ

○地方測候所費地方稅費目支辨方

二十年十月二十七日內務省訓令第四十六號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年勅令第四十一號氣象臺測候所條例第四條ノ規定ニ係ル地方測候所費ハ地方稅費目中勸業費ヨリ支辨スヘシ

第二百四十九章 地方官々制

明治十九年七月十二日勅令第五十四號

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年七月十二日

內閣總理大臣伯耆伊藤博文
內務大臣伯耆山縣有朋

勅令第五十四號

地方官々制

府 縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

知事

書記官

收稅長

屬

收稅屬

典獄

副典獄

書記

看守長

看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察事務ヲ總理

ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得
第三條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス
第五條 府縣令ハ內務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯

スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラル、コトアルヘシ
第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ功過ハ內務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其委任官ニ係ルモノハ之ヲ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺若クハ分營ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 知事ハ各郡區內警察分署ノ配置分合ヲ定ム
第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設タルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
第十二條 知事ハ一週年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ
賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專
行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官々等
俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テ
スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務
ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ
關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 收稅屬ハ判任トス收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ
事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職
務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看
守ノ勤惰ヲ觀察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク

第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ
書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項

二、地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項

三、外國人ニ關スル事項

四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事

五、農工商務ニ關スル事項

六、他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一、土木ニ關スル事項

三、學務ニ關スル事項

五、衛生ニ關スル事項

第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切

二、兵事ニ關スル事項

四、監獄ニ關スル事項

六、會計及公債証書ニ關スル事項

ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設ケルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得
(自第二十七條
至第三十六條ハ警察官職制ニシテ上編第六類ニ掲出ス依テ略之)

郡區

第三十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人區毎ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

第三十八條 郡區長ハ委任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第三十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラレハキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ内部行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 島司ハ委任三等以下トス

○地方官官等俸給令並改正俸給表

明治十九年七月十二日
勅令第五十五號

地方官等俸給令

第一條 知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ

勅任二等 上四千五百圓
下四千圓

委任一等 上三千五百圓
下三百圓

第二條 知事ハ五年ヲ除ユルニアラサレハ其年俸ヲ増給セス

第三條 東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事ノ叙任特例ハ勅令第六號高等官々等俸給令ニ依ル

第四條 書記官警部長收稅長郡區長ノ叙任同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ前條ニ同シ

第五條 屬典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官々等俸給令ニ依ル

第六條 警部警部補看守長看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依ル昇等毎等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

(別表)

判	任	官
官 等 一 等	四拾五圓	四拾五圓
官 等 二 等	四拾圓	四拾圓
官 等 三 等	三拾六圓	三拾六圓
官 等 四 等	三拾二圓	三拾二圓
官 等 五 等	二拾八圓	二拾八圓
官 等 六 等	二拾四圓	二拾四圓
官 等 七 等	二拾圓	二拾圓
官 等 八 等		
官 等 九 等		
官 等 十 等		
警 部	二拾八圓	二拾四圓
警 部 補	二拾四圓	二拾圓
看守長	二拾八圓	二拾四圓
看守副長	拾八圓	拾五圓
警部補	拾八圓	拾五圓
看守副長	拾八圓	拾五圓

判	任	官
官 等 一 等	五拾四圓	五拾四圓
官 等 二 等	四拾九圓	四拾九圓
官 等 三 等	四拾四圓	四拾四圓
官 等 四 等	三拾九圓	三拾九圓
官 等 五 等	三拾四圓	三拾四圓
官 等 六 等	二拾九圓	二拾九圓
官 等 七 等	貳拾四圓	貳拾四圓
官 等 八 等	拾九圓	拾九圓
官 等 九 等	拾四圓	拾四圓
官 等 十 等	拾圓	拾圓
收稅屬	五拾四圓	五拾四圓

○第二百五十章 官吏服務紀律

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

御名 御璽

明治二十年七月二十九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十九號

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退クニ於テモ亦同様トス
裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得
- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コ

トヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

トヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事情ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○第二百五十一章 文官試驗試補及見習規則

朕文官試驗試補及見習規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年七月二十三日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十七號

文官試驗試補及見習規則

第一 通則

第一條 本令ニ於テ文官ト稱スルハ委任判任ノ文官ヲ總稱シ試補ト稱スルハ勅令第十
三號學位令ニ依リ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學及舊東京大
學法學部文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ヲ經當選シテ高等官ノ實務ヲ練習スル者ヲ云
ヒ見習トハ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校帝國大學ノ監督ヲ受
クル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ヲ經當選シテ判任官
ノ事務ヲ練習スル者ヲ云フ

本令ニ於テ司法官ト稱スルハ裁判官及檢察官ヲ總稱ス

第二條 第三條第四條ニ掲グルモノヲ除クノ外本令ニ依リ定規ノ試験ヲ經當選シタル
者ニアラサレハ試験及見習ニ任命スルコトヲ得ス又實務練習ヲ終リタル者ニアラサ
レハ本官ニ任スルコトヲ得ス

第三條 三年以上分科大學ノ教授ニ任シタル者ハ高等試験及實務練習ヲ要セス直ニ本
官ニ任シ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊來東京大
學法學部文學部ノ卒業生ハ高等試験ヲ要セス試補ニ任スルコトヲ得

司法官タルノ資格ヲ有スル者ニシテ他官ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タルノ
資格ヲ有シ三年以上代言人タル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第四條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受ク
ル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス判任官見
習ヲ命スルコトヲ得

第五條 試験ヲ分テ高等試験普通試験ノ二種トス

高等試験ハ試補ニ任用セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニシ普通試験ハ判任官見習ニ任用
セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニス

第六條 試験ハ筆記口述ノ二様トス筆記試験ニ落第シタル者ハ口述試験ヲ受クルヲ得ス

第七條 試験ハ筆記口述ノ二様ニ就キ各科目ノ點數ヲ合算シタル一定ノ平均點數ヲ以
テ合格ヲ定メ時々官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ合格者中ヨリ選抜シテ當
選者ヲ定ム但一科目ニ付一モ點數ナキ者ハ合格者トスルコトヲ得ス

第八條 前條ノ選抜ニ當ラサル者ハ合格者ト雖モ再ヒ文官ノ任用ヲ望ムトキハ更ニ本
令ニ依リ試験ヲ受クヘシ

第九條 試験ニ必要ノ參考書類及紙墨ハ試験室ニ備ヘ置キ受験人之ヲ携帶スルコトヲ
許サス

第十條 試験當選者ノ姓名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十一條 第九條ヲ犯シ若クハ不正ノ方法ヲ以テ當選シ他日其事ノ發見シタルトキハ
當選ノ効ナキモノトス

第十二條 第九條ヲ犯シタル者及第十一條ノ處分ヲ受ケ又ハ不正ノ方法ヲ以テ當選セ
ント企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條 第十八條第二十三條第三十三條第三十六條ノ履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之
ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條 試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ後五箇年間ハ事務練習中ト雖モ本官ノ缺アルトキハ其練習ノ満期ヲ待スシテ本官ニ任スルコトアルヘシ

五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者ニシテ高等試験ヲ經當選シタル者ハ事務練習ヲ要セズ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第二 高等試験

第十六條 高等試験ハ各官廳ノ須要ニ從ヒ時々東京ニ於テ試験委員之ヲ行フ其期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條 高等試験ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 丁年以上ノ男子
 - 一 外國ニ於テ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修學シタル旨ヲ證明スル證書ヲ有スル者
 - 一 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 高等中學校及東京商業學校ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者
- 第十八條 試験願書ハ其時々官報ヲ以テ公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 第十七條ニ掲グル卒業證書及修學證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第十九條 高等試験ノ科目ハ試験ヲ行フ年毎ニ司法官又ハ行政官ノ別ニ依リ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官試験局長官之ヲ選定シ試験ノ期日三箇月前ニ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條 第三條第四條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スルモノハ別段ノ試験法ヲ定ムルマテ各官廳ノ需求ニ從ヒ試験ヲ經スシテ之ヲ任用スルコトヲ得

第三 試補

第二十一條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ定限ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習スヘシ

第二十二條 各官廳試補ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十三條 法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ノ卒業生ニシテ行政官又ハ司法官ノ試補タランコトヲ望ム者ハ左ノ書類ヲ取添高等試験期日三十日前ニ其旨ヲ文官試験局長官ニ出願スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 學位又ハ卒業證書ノ寫

一 身分年齢

第二十四條 行政官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ地方官廳一箇年半ハ中央官廳ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十五條 司法官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ治安裁判所一箇年半ハ始審裁判所ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十六條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習スルニ付テハ其主務長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二十七條 主務長官ハ事務練習ノ終ニ於テ試補練習ノ功程ヲ所屬大臣ニ具狀シ其意見ヲ提出スヘシ

第二十八條 所屬大臣ハ練習期限中ト雖モ試補官更ニ必要ナル品位ヲ失ヒタルモノト認ムルトキハ試補ヲ免スヘシ

第二十九條 在職ノ判任官ニシテ高等試験ヲ經當選シタル者ハ事務練習ヲ要セス缺員アル場合ニ於テハ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第三十條 試補ノ命ヲ承ケ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習セサル者ハ試補ヲ免スヘシ

第四 普通試験

第三十一條 中央官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々其官廳ヨリ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 地方官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ又官廳ノ需ニ應シ府縣ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々普通試験委員長ヨリ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條 試験願書ハ本八自ラ之ヲ認メ其時々公告スル期日前ニ左ノ証書ヲ取添之ヲ普通試験委員長ニ差出スヘシ

- 一 出願者ノ履歷書
- 一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ証書

第三十四條 普通試験ノ科目ハ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ普通試験委員之ヲ撰定シ文官試験局長官ノ認可ヲ經テ試験ノ期日一箇月前ニ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五 判任官見習

第三十五條 各官廳ハ其需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業証書ヲ有シ及普通試験ニ及第シタル者ニ判任官見習ヲ命スヘシ

判任官見習ヲ命セラレタル者ハ所屬長官ノ指命スル所ニ就キ二箇年ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習シ判任官ノ缺員ヲ待テ本官ニ任セラルヘシ

第三十六條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業証書ヲ有シ判任官見習タランコトヲ望

ム者ハ普通試験期日三十日前ニ左ノ書類ヲ添ヘ主務官廳ニ出願スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 卒業證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十七條 所屬長官ハ判任官見習官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタル者ト認ムルトキハ判任官見習ヲ免スルコトヲ得

第三十八條 本令施行ノ前二箇年以上各官廳ニ於テ雇員トナリタル者ニシテ事務ニ熟練シタル者ト本屬長官ニ於テ認ムルトキハ試験ヲ要セス直ニ判任官ニ任スルコトヲ得

第三十九條 本令ハ明治二十一年一月ヨリ施行ス

○文官試験試補及見習規則ニ關スル細則 二十年七月二十三日 閣令第十八號

文官試験試補及見習規則ニ關スル細則

第一條 高等試験ハ左ノ科目中司法官ハ五科目以上行政官ハ三科目以上ヲ以テ試験ヲ行フノ定限トシ試験ノ期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官報ヲ以テ之ヲ公告ス司法官ノ試験ハ一二三四五六七ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定メ行政官ノ試験ハ二三四ノ科目ヲ除キ自餘ノ科目中ニテ試験ヲ行フノ科目ヲ定ム

一 民法

二 訴訟法

三 刑法

四 治罪法

五 商法

六 憲法

七 行政

八 財政

九 理財

十 國際法

第二條 前條ノ科目中本邦ニ成典アルモノヲ除クノ外ハ受験人ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル外國ノ書籍ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 高等試験ハ國語及漢字交リノ文ヲ以テ之ヲ行フ特ニ外國語及外國文ヲ以テ試験ヲ受ケンコトヲ願フ者ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第三條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外 教官技術官其他特別ノ學術技術ヲ要スル者ノ試験ヲ爲ストキハ其試験ノ科目ハ試験ノ期日及場所ト共ニ三ヶ月以前ニ文官試験局長官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 高等試験ハ勅委任官ニシテ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル者ノ外傍聽ヲ許サス

- 第六條 筆記試験ハ受験人総員ヲ一室又ハ數室内ニ閉鎖シ一室毎ニ試験委員一名監視シテ之ヲ行フヘシ但受験人一名ナルトキハ試験委員二名監視スルヲ要ス
- 第七條 筆記試験ノ問題ハ試験局長官定ムル所ノ方法ニ依リ各受験人ヲシテ之ヲ知悉セシメ豫定ノ時間内ニ答辨書ヲ差出サシムヘシ
- 第八條 筆記試験ノ問題ノ數ハ各科目ニ付試験委員ノ議定シタル所ニ依ル
- 第九條 試験室ニ備ヘ置クヘキ必要ノ参考書類ハ法律類集官報其他公然ノ法律ニ限ル
- 第十條 口述試験ハ筆記試験ヲ終リタル後試験委員長ノ上席ヲ以テ試験委員總員ノ列席ニ於テ受験人一名毎ニ試問シテ即時答辨ヲ爲サシムヘシ
- 第十一條 口述試験ハ各受験人ニ付キ半時間以上一時間以内トス
- 第十二條 高等試験ハ受験人ノ果シテ學理上ノ原則ニ通曉スルヤ現行ノ法律命令ヲ解得スルヤ又法律命令ヲ實務ニ應用シ及之ヲ口述スルニ確實敏捷ナルヤ否ヲ試験スルヲ以テ目的トスヘシ
- 第十三條 高等試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルト試験委員ノ議定シタル平均點數ニ依ル
- 第十四條 當選者ハ各合格者ニ就キ試験委員長ノ具狀スル所ニ依リ各官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ之ヲ定ム
- 第十五條 試験ノ合格者中ヨリ當選者ヲ查定スルハ其試験ヲ行ヒタル日ヨリ四週間以内ニ之ヲ結了シ官報ヲ以テ其姓名ヲ公告スヘシ

- 第十六條 試験委員長ハ試験委員ノ職務ニ屬スル議決ノ數ニ入ラス若シ其議決ニ關シ試験委員ノ説可否相半スルトキハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル
- 第十七條 受験人ハ其試験ヲ受クルノ際試験手續ニ關スル規則及試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ監視ノ試験委員ニ於テ退室ヲ命シタルノ後之ヲ試験委員長ニ報告シ其試験ヲ拒ムコトヲ得
- 第十八條 高等試験ノ手續ニ關スル細目ハ文官試験局長官ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 普通試験ニ關スル細則ハ文官試験局長官ノ認可ヲ經各官廳ノ普通試験委員ノ定ムル所ニ依ル

○文官試験委員官制

二十七年七月二十三日布告
勅令第三十八號

文官試験委員官制

- 第一條 文官試験委員ハ文官試験局試験委員中央普通試験委員及地方普通試験委員ヲ總稱ス
- 第二條 高等試験
- 高等試験ヲ施行シ文官ノ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ラシムル爲ニ文官試験局ヲ置キ内閣總理大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ
- 長官
- 試験委員
- 書記官
- 第三條 長官一人勅任トス文官試験試補及見習規則ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ兼テ高等試験委員ノ長トナル

第四條 長官ハ文官試験委員ヲ監督シ試験ノ事務ニ關シテ時々報告ヲ命シ又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第五條 長官ハ帝國大學及其他勅令第三十七號ノ試験ニ關スル諸學校ノ試験規程ニ關シテ内閣總理大臣又ハ所屬長官ニ意見ヲ述ブルコトヲ得

第六條 長官ハ毎年末ニ於テ試験出願者當選者試験見習並文官任用ノ人員身分年齢族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第七條 長官ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經文官試験試験補及見習ニ關スル細則ヲ定ムルヲ得

第八條 文官試験局ノ試験委員ハ内閣總理大臣各官廳ノ勅委任官及官立學校ノ教官ヨリ選テ之ニ充ツ

第九條 文官試験局ノ試験委員ハ長官ノ監督ニ屬シ其徵召ニ應シ文官試験試験補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ高等試験ヲ施行スルコトヲ掌ル

第十條 書記官ハ二人奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ文書ヲ整理ス

第十一條 屬ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ヲ掌ル

第十二條 普通試験ヲ施行シ及之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌テシムル爲ニ中央官廳ニ於テハ官廳毎ニ普通試験委員ヲ置キ府縣ニ於テハ府縣毎ニ普通試験委員ヲ置ク

第十三條 中央官廳ノ普通試験委員ハ局長參事官書記官又ハ其他ノ高等官ヨリ選テ各官廳ノ長官之ヲ命シ又ハ囑托スヘシ

第十四條 普通試験ヲ施行スル爲ニ各官廳ノ長官ハ委員中ヨリ選テ普通試験委員長ヲ命スヘシ

第十六條 各官廳ノ長官ニ於テ普通試験委員長委員ヲ命シ又ハ囑托シタルトキハ其官職姓名ヲ文官試験局長官ニ通知スヘシ

第十七條 普通試験委員長ハ文官試験試験補及見習規則ニ依リ所管ノ普通試験ヲ施行シ之ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ普通試験委員ヲ監督ス

第十八條 普通試験委員長ハ官立府縣立諸學校ノ試験規程ニ關シテ意見アルトキハ之ヲ文官試験局長官ニ具申ス

第十九條 普通試験委員長ハ毎年末ニ於テ試験出願者當選者事務練習人並文官任用ノ人員身分年齢族籍等ヲ統計細別シ其意見ヲ具シテ文官試験局長官ニ報告スヘシ

第二十條 普通試験委員ハ普通試験委員長ノ徵召ニ應シ文官試験試験補及見習規則及之ニ關スル諸細則ニ依リ普通試験ヲ施行シ時々其結末ヲ普通試験委員長ニ報告スルコトヲ掌ル

第二十一條 普通試験ノ事務ニ關シ書記計算簿記ヲ掌ラシムル爲ニ各官廳ニ兼職スル判任官ヲ以テ書記ニ充ツヘシ

○試験補及見習ノ待遇并ニ任用
勅令第三十七號
本年(七月)勅令第三十七號文官試験試験補及見習規則ニ據リ試験及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試験補ヲ奏任トシ見習ヲ判任トス

同則ニ據リ試補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試補ハ委任官四等以下トシ見習ハ判任官五等以下トス

○判任官高等試験ヲ受クルコトヲ得ル

二十年十二月二十五日
布告勅令第六十四號

本年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則施行ノ後五箇年間ハ五ヶ年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ニ叙セラレタル者ハ同則第十七條第五項ニ準シ高等試験ヲ受クルコトヲ得其當選シタル者ノ本官ニ任スルハ同則第二十九條ニ據ル

○高等試験及實務練習ヲ要セス司法官ニ任ス

ルヲ得ヘキ者ノ資格
二十年七月二十三日
閣令第十九號

四ヶ年以上裁判官檢察官ノ職ヲ奉シ他ニ轉官シ又ハ四ヶ年以上舊參事院議官又ハ職官補ノ職ヲ奉シタル者四ヶ年以上司法官ノ民事局長刑事局長又ハ參事官ノ職ヲ奉シタル者及代言人試験ニ及第シ五ヶ年以上代言人タル者ハ當分ノ内高等試験及實務練習ヲ畑セスシテ司法官ニ任スルコトヲ得

○試補及見習俸給支給方

二十一年三月十五日
閣令第二號

明治二十年(十二月)閣令第二十八號ニ據タル試補ノ俸給ハ年俸九百圓以下判任官見習ノ俸給ハ月給四拾圓以下其官職ノ定額内ニ於テ所屬長官便宜之ヲ給スルコトヲ得

○在職判任官本官ニ任用年限

二十年十一月七日
閣令第三拾三號

本年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第廿九條在職判任官ニシテ直ニ本官ニ任スルヲ得ル者ハ在職三年ニ滿ル者ニ限ル若三年ニ滿サル者ハ先試補ニ任用シ前

後通算シテ三年ニ滿ルヲ待テ本官ニ任スルモノトス

第二百五十二章 司法省舊法學校正則部卒業生

試驗規則適用

明治二十年十二月廿一日
閣令第三拾五號

明治二十年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第一條第三條及第二十三條中舊東京大學法學部卒業生ニ關スル規定ハ司法省舊法學校正則部卒業生ニモ適用スルモノトス

第二百五十三章 技術官任用例規

明治二十年十二月二十八日
閣令第三拾八號

本年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第二十條ニ據リ別段ノ試験法ヲ定ムルマテハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者ヲ任用スルニハ左ノ例規ニ依ルヘシ
一 判任官ハ本則第三條ニ準シ各種ノ學術技藝ニ就キ一定ノ資格アル者又ハ第十七條ニ準シ其經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等豫メ文官試験局長官ノ銓衡ヲ經テ後各省大臣ヨリ奏聞ノ手續ニ及フヘシ

一 判任官ハ本則第四條ニ準シ各種ノ學術技藝ヲ修メ一定ノ資格アル者ヲ命シ其他ノ者ハ經歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齡等豫メ普通試験委員長ノ調査ヲ經テ之ヲ命スヘシ

本年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則其他之ニ關スル法令中試験ニ關スル條項ノ外通則試補判任官見習ニ就キ規定シタルモノハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要

スルモノニモ適用スルモノトス

第二百五十四章 郡區長ハ内務大臣指定ニ依リ

又他ノ高等官ニ轉スルヲ得ス 明治二十年七月廿三日
閣令第貳拾號

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試験ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試験科目ハ常分ノ内地方ノ實況ヲ斟酌シテ内務大臣ノ指定スル所ニ依ル

但郡區長ハ高等試験ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

○郡區長試験條規 二十年十二月二十九日 内務省令第五號

郡區長ノ試験ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條 郡區長ノ試験ハ左ノ科目ヲ以テ内務省ニ於テ之ヲ行フ

一 就職スヘキ地方ノ風土慣例及物産

一 郡區長職務ニ必要ナル法令

一 郡區長職務ニ關スル公文ノ立案

第二條 郡區長ノ試験ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五箇年以
上委任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉シタル者ハ此限ニアラス

第三條 試験出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳又ハ府
縣廳ヲ經テ試験委員長ニ差出スヘシ

第四條 試験委員ハ内務大臣内務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之ヲ命シ

又ハ囑託シ内務省總務局長ヲ以テ委員長トス

第五條 試験委員ハ必要アル場合ニ於テハ問題ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知事ニ送
付シ該地方高等官三名以上列席ニ於テ其應答ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 試験ノ手續ニ關スル細目ハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル

第二百五十五章 官吏辭職後再ヒ就職スルモノノ制限

明治二十年四月十九日
閣令第九號各官廳

各官廳ニ奉仕スル官吏ニシテ辭職シタル者ハ辭職後滿一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ
再ヒ就職スルヲ許サス且官等俸給共前官ニ超越スルヲ得ス

第二百五十六章 判事登用規則 明治十七年十二月二十六日 太政官第百二號達

判事登用規則左ノ通相定候條此旨相違候事

判事登用規則

第一條 判事ニ登用スルハ法學士代言人及ヒ試験ヲ行ヒ及第シタル者ニ限ルヘシ

但シ外國ニ於テ法學士狀師ノ稱號ヲ受ケタル者ハ尙ホ試験ヲ行フヘシ

第二條 法學士代言人及ヒ試験及第者登用スル時ハ先ツ判事試験ヲ命シ一箇年以上始
審裁判所ニ試用シ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ其本官ニ任スルモノトス

法學士ニシテ代言人タルモノハ二年以上其他ノ代言人ハ五年以上其業ヲ務メ學識經
驗卓絶ナル者ハ判事定員ニ缺アル時直ニ其本官ニ登用スルコトアルヘシ

判事試験服務一箇年以上ノ者ハ檢事ニ登用スルコトアルヘシ

閣令第五號
明治十九年
一月二十六日
中政更アリ

第三條 左ニ掲グル者ハ登用スルコトヲ得ス

- 一 丁年未滿ノ者
- 一 品行方正ナラサル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 一 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
- 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 貨幣偽造ノ罪印文書偽造ノ罪及ヒ偽証誣告ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
- 一 懲戒ニ依テ免官トナリタル者

第四條 試験ハ司法省ニ於テ隨時之ヲ舉行ス但其期日及ヒ試験出願等ノ手續ハ司法卿之ヲ定メ六箇月前ニ告示スヘシ

第五條 司法卿ハ試験ヲ舉行スル毎ニ試験委員及ヒ委員ヲ命スヘシ

第六條 司法卿ハ試験科目ヲ定メ試験ニケ月前ニ之ヲ告示スヘシ

第七條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サス

第八條 試験及第者ニハ試験委員連署ノ及第證書ヲ授與ス

第九條 左ニ掲グル者ハ試験及ヒ判事試験ノ例ヲ用ヒス補缺ノ爲メ直ニ判事ニ任スル

コトアルヘシ

- 一 判事補ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シ學識經驗判事ノ資格ニ適スル者
 - 一 曾テ判事ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シ轉官シタル者
 - 一 法學士代言人及試験及第者ニシテ判事ノ職ヲ奉シ轉官シ若クハ法學士ニシテ他ノ官廳ニ奉職ノ者
- 第十條 檢事ノ職ヲ奉シ五年以上恪勤シタル者ハ判事定員ニ缺アル時判事ニ轉任セシムルコトアルヘシ

○判事試験出願人心得并ニ願書例

二十年二月二十六日 司法省告示第四號

明治十七年太政官第百二號達ニ基キ判事登用ノ爲メ當省ニ於テ來ル十月一日ヨリ試験舉行候條志願ノ者ハ左ノ條項相心得來ル八月三十一日マテニ願出ツ可シ但右日限後ハ願書ヲ受理セス

試験出願人心得

第一條 試験出願者ハ第一號書式ニ倣ヒ試験願書ヲ認メ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ出ス可シ

第二條 官廳ニ勤仕スル者ニシテ試験ヲ受ケントスルモノハ長官ノ免許ヲ受ケ其免許書ヲ試験願書ニ添フ可シ

第三條 一タヒ官廳ニ奉職シ免官トナリタル者ハ其辭令書ノ寫ヲ試験願書ニ添フ可シ

第四條 徵兵現役ニ該ルヘキ者ハ出願スルヲ得ス

第五條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ許サズ

- 一 丁年未滿ノ者
- 一 品行方正ナラサル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 一 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者
- 一 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサル者
- 一 盜罪贓罪詐欺取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者
- 一 貨幣偽造ノ罪印章偽造ノ罪及ヒ偽証報告ノ罪ニ付キ刑ニ處セラレシ者
- 一 賭博犯ニ付懲罰一年以上ニ處セラレシ者
- 一 懲戒ニ依テ免官トナリタル者

第六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二様トス但筆記試験ニ不合格ナル者ハ口述試験ヲ爲サズ

第七條 試験合格ノ者ニハ及第證書ヲ附與スヘシ

第八條 試験及第者ヲ登用スルニハ先ツ判事試験ヲ命シ一箇年以上始審裁判所ニ試用シ判事定員ノ缺アルニ隨ヒ其本官ニ任セラルヘシ但時宜ニ依リ檢事ニ登用セラル、コアル可シ

第九條 試験及第者ノ數需用ノ人員ニ超過シ及第者ヲ悉ク登用スルコト能ハサル場合

ニ於テハ及第者中ニ就キ之ヲ採用ス

第一號書式(料紙美濃紙)

試験願書

本籍 血ニ戸主嗣子又ハ二三男兄弟ノ別

身分 氏 名

何年何箇月

私領御省本年第四號告示ニ基キ試験相受ケ度此段奉願候也

現住所

氏名印

年月日

司法省御中

前番ノ通族籍年齢等相違無之候也

本籍

戸長 某 印

年月日

第二號書式(料紙美濃紙)

履歴書

本籍

身分 氏 名

一何年何月ヨリ何月迄何某ニ就キ又ハ公私立何學校何塾ニ於テ何學修業

一何年何月何々進退賞罰等ニ關スル一切ノ件
一御告示各項ニ相觸レ候儀ハ一切無之候

前書ノ通相違無之候事

年月日

本籍

氏名印

戸長 某 印

第二百五十八章 租稅検査員旅費支給方

十九年八月二日大藏省訓令第三十六號

租稅検査員旅費ノ儀八月一日以後成費規則第十七條ニ據リ検査ニ從事中左ノ月額ヲ以テ支給スヘシ

一租稅検査員旅費月額ハ府縣廳下ノ検査區内金拾五圓廳下ノ外検査區内金拾九圓五拾錢トス

一検査員本廳ヨリ検査區ヘ往復シ及甲乙轉區スル途中旅費ハ旅費規則第二條ニ依リ支給スヘシ

一旅費月額ハ検査區着ノ月ハ其翌日ヨリ出發ノ月ハ其前日マテ本額三十分一ノ割合ヲ以其日數ニ應シ支給スヘシ

一廳下ノ検査區内ニ於テ検査ニ從事セサルコトアルトキハ其日數ヲ除キ前項ニ依テ支給スヘシ

一府縣知事ハ大藏大臣ノ允許ヲ請フテ月額ヲ減スルコトヲ得

第二百五十八章 判任官々等俸給令

朕茲ニ判任々官等俸給令ヲ裁可ス

御名 御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第三十六號(四月三十日官報)

判任官々等俸給令

第一條 判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル

第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第四條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ踰ユルニアラサレハ昇等スルコトヲ得ス

第五條 每等ニ定員ヲ限リ欠員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス

第六條 判任官一等ニシテ上給俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタルモノハ月俸三ヶ月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

別表

判	任	官
一	等	二
二	等	三
三	等	四
四	等	五
五	等	六
六	等	七
七	等	八
八	等	九
九	等	十
十	等	
上	七拾五圓	
下	六十圓	

○判任官俸給支給細則并附則

十九年五月四日
大藏省令第二十號

判任官俸給支給細則

第一條 判任官ノ月俸ハ毎月左ノ日割ニ依リ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス

二十六日 〔内閣 外務省 大藏省 農商務省 逓信省 元老院 會計検査院 右ニ屬セサル諸廳〕 二十七日 〔陸軍省 海軍省 司法省 文部省〕

第二條 増俸減俸(非職減俸共)ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條 轉任ノトキハ前任廳ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第五條 公務ニ由リ旅行スルモノニハ第一條ノ日割ニ拘ラス翌月マテノ俸給ヲ給與スルコトヲ得

第六條 右ニ掲ル者ノ外ハ總テ高等官年俸支給法ノ例ニ據ル
附則

一新官制ニ依リ本年五月一日以前ニ任官ノモノハ總テ五月一日ヨリ起算シテ俸給ヲ支給シ同日以後任官ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ新官ノ俸給ハ其翌日ヨリ起算スルモノトス

●伺指令

判任官俸給支給細則ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺明治十九年五月六日

省令第二十號判任官俸給支給細則ハ地方廳ニテモ適用シ可然哉

指令 明治十九年五月八日

當省令第廿號ハ官制改革ナキモノニハ適用セス

第二百五十九章 戸長身分取扱

十九年十月六日
内務省令第二十一號

戸長身分取扱方ハ勅令第三十六號判任官官等三等以下ニ準シ其俸給ハ道廳長官府縣知事適宜之ヲ定ムヘシ

○戸長職務上過失

十八年二月六日
内務省甲第四號府廳(沖繩縣ヲ除ク)

戸長職務取扱上過失アルトキハ總テ官吏懲戒例ニ依リ處分スヘシ但明治十一年乙第八十號達第五項ハ廢止ス
右相違候事

○戸長退官死亡ノ者俸給々與方 十八年四月九日内務省甲第十一號 府縣沖繩縣ヲ除ク

一戸長滿五年以上奉職十一年未滿ニシテ退官セシキハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上ニシテ全上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス但自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス
一戸長在職中死亡ノ者ハ現俸給三ヶ月ヲ給ス
右相違候事

第二百六十章 官吏非職條例 明治十七年一月四日 第三號達

官吏非職條例左之通相定候條此旨相違候事

官吏非職條例

第一條 官吏 判任官以上並ニ出仕 御用掛モ之ニ準ス 奉職中各官廳ノ事務張弛其他疾病等ノ事故ニ因リ本屬長官ハ其僚屬ノ官吏ニ非職ヲ命スルコトヲ得但勅任官ノ非職ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス
第二條 非職員ハ其本官ヲ奉シテ常ニ其職務ニ從事セス其他總テ在職官吏ニ異ナルヲナシ

第十七年四月
第三十九號
改正
第一條

十七年四月
十九號
第三十九號
第七號
第七號
第七號
第七號
第七號
第七號
第七號
第七號

第三條 本属長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ非職員ヲシテ更ニ其職務ニ從事セシムルヲ得

非職員復職スル時ハ勅任官ハ上裁ニ依リ奏任官ハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス

第四條 非職ハ三年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第五條 非職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第六條 廢廳廢官ノ際御用滞在ヲ命スル者アルハ本條例ニ準據ス

第七條 非職員ハ特ニ本長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸等會社ノ

業務ニ從事シ其役員ト爲ルコトヲ得本属長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁

ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス

第八條 非職中第七條ノ業務ニ從事シ其給料ヲ受ル時間ハ第五條ノ俸給ヲ支給セス

第二百六十一章 内訓條例

(府縣廳モ亦適用ス) 十五年五月五日 司法省丙第十九號

内訓條例別紙之通大審院諸裁判所へ相達置候處其(廳府縣)ニ於テモ法律上ノ疑義ニ付

テハ該達ニ照依シ内訓ヲ請フヲ得ヘシ此旨相達候事

今般内訓條例別紙ノ通相定候條此旨及内達候事

(別紙)

内訓條例

第一條 凡内訓條例ハ司法卿ト各裁判所(裁判官檢事)トノ間ニ於テ用ユル處ノ内規ニ

シテ專ラ情實疎通事理伸暢ノ爲ニ設クルモノナリ故ニ此條例ニ從フモノハ尋常伺指

令ノ効力アラサルモノトス

但シ何指令ハ各其職務ノ權限ニヨリ發令スルモノナリ該條例ハ職權ニ不拘唯其注意ヲ要スル爲ニ發スルモノナルニヨリ必シモ準據セサルヘカテサルノ効力アラストス

第二條 凡民刑上疑問疑難且裁判百般ノ事情其注意ヲ要スルモノハ總テ此條例ニ從フヘシ

第三條 凡此條例ニ從テ裁判官ヨリ司法卿ニ請フモノハ末文内訓ヲ請フト書シ尋常伺文ニ殊別スヘシ

第四條 凡此條例ニ從テ司法卿ヨリ各裁判所ヘ致スモノハ末文内訓ニ及ト書シ尋常ノ指令ニ殊別ス

第五條 凡裁判所ニ於テ尋常ノ伺トシテ出スモノト雖モ司法卿ニ於テ内訓トナスヘク見込ムルハ末文内訓ニ及トナシ又内訓ヲ請フトシテ出スモ指令トナスヘシト見込ムトキハ末文指令ニ及トナシ還付ス必スシモ原文ヲ改作セシムルヲ要セス簡便ニ從フヲ以テ旨トスレハナリ

第六條 内訓ハ指令ノ効力ナシト雖モ其從フヘカテサルモノハ其事理ヲ詳悉シ再ヒ之ヲ請ヒ反覆數回妨ケナキヲ以テ其定ムル處ヲ待ツヘシ亦事理申暢ノ意ナリ

第二百六十二章 乘馬飼養令

乘馬飼養令左ノ通相定候條此旨相達候事

十七年八月一日
第六十六號達

乘馬飼養令

第一條 勅奏任文武官ハ乘馬ヲ飼養スヘシ

但陸軍武官并ニ警視官等ニシテ乘馬本分ノ職ヲ奉スル者ハ其本分ノ馬匹ハ各其規則ニ依ル海軍武官ハ海上勤務奉職中ノ者ヲ除ク

第二條 文武官飼養ノ馬匹ハ戰時若クハ事變ニ際シ軍用ニ供給スルノ義務アルモノトス

第三條 勅奏任官ハ年俸ト月俸トヲ問ハス一箇月俸給百圓以上ヲ受ケル者出仕費用掛ニ包含ス限リ左ニ掲ケル馬數ヲ飼養スヘシ

但各自ノ便宜ニ依リ定數以上ノ馬匹ヲ飼養スルコト及乘馬ヲ馬車馬ニ換フルコトハ妨ケナシ

俸給百圓以上三百圓未滿ノ者	乘馬一頭
同 三百圓以上四百圓未滿ノ者	同 二頭
同 四百圓以上五百圓未滿ノ者	同 三頭
同 五百圓ノ者	同 四頭
同 六百圓ノ者	同 五頭
同 八百圓ノ者	同 六頭

第四條 乘馬ハ各自ノ望ニ任セ陸軍省ヨリ官馬ヲ拂下ク可シ
但百圓以上貳百圓未滿ノ給俸ヲ受ク者ニ限リ其代價ハ月賦ニテ上納セシム

第五條 事故アリ定數ノ乗馬ヲ飼養スルコト能ハサル者ハ飼料トシテ每一頭一箇月金拾圓百圓以上百五十圓未満ノ俸給ヲ受クル者ハ七圓ノ割合ヲ以テ毎月本官廳ニ納メ本官廳ハ其金額ヲ取纏メ翌月之ヲ陸軍省ニ送付スヘシ

但飼養料ヲ上納スル者ハ臨時陸軍省ヨリ官馬ヲ借用スルコトヲ得

第六條 陸軍省ニ於テハ第四條ノ官馬拂下ケ并ニ第五條ノ飼養料ニ充ツ可キ馬匹ヲ備ヘ置キ拂下ケ及臨時貸與ノ方法ヲ定ム可シ

第七條 各自乗馬ヲ飼養スル準備ノ爲メ本令頒布ノ日ヨリ左ニ掲クル年月間其飼養ヲ猶豫スルコトヲ得

但本令頒布ノ後新ニ任官シタル者若クハ百圓未満ヨリ百圓以上ノ俸給ニ昇進シタル者ハ其新任若クハ昇進ノ日ヨリ起算ス又海軍武官ノ海上勤務ヨリ陸上勤務ニ轉シタル者ハ其轉職ノ日ヨリ起算スヘシ

俸給百圓以上百五十圓未満ノ者 一箇年

同 百五十圓以上百圓未満ノ者 十箇月

同 貳百圓以上三百圓未満ノ者 六ヶ月

同 三百圓以上四百圓未満ノ者 二ヶ月

同 四百圓以上ノ者 一ヶ月

現 同 訓 令 訓 明 治 類 典 下 終 編

正 誤

第一類	三	丁	十六行	割注全上ハ衍
第二類	百三十六	丁	九行	割注明治二十年ハ二十一年ノ誤
第五類	三	丁	一行	割注八年第百四號ハ百十四號ノ誤
第六類	同	丁	十七行	期ハ限ハ期限ノ誤
第六類	六十六	丁	十七行	割注 <small>內務年ハ十九年ノ誤 十九省ハ內務省</small>
第六類	六十九	丁	九行	割注十五年十月ハ十二月ノ誤
第六類	百六十四	丁	十八行	割注明治三年二月ノ下廿九日布告脱ス
第七類	一	丁	二行	第五十六章ハ第五十五章ノ誤
第七類	二十六	丁	一行	監守ハ看守ノ誤
第八類	十二	丁	十一行	貫屬ノ下替ノ字脱ス
第十二類	十八	丁	十八行	土地分合ノ下併ハ衍
第十三類	四百十七	丁	百二十六章ハ百三十六章ノ誤	
第十三類	百四十二	丁	九行	徵兵旅行定則ハ徵兵旅費定則ノ誤
第十五類	六十五	丁	五行	獸開醫ハ獸醫開ノ誤
第十五類	同	丁	十一行	百七十三章ハ百七十二章ノ誤
同	三百五十四	丁	十四行	西洋船舶ハ西洋形船々ノ誤
第十七類	四十七	丁	五行	裁判期限ハ第二百二十二章華士族卒及

上下一般貸借并ニ再立ノ藩々再立以前ノ貸借裁判期限ノ誤
 同 九十七丁 九 行 割注第五十三號ハ第百八十七號ノ誤
 第十八類 九十一丁 八 行 犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル
 物件其所ノ下ヘ有テ脱ス
 第廿一類 百四十四丁 七 行 二百五十八章ハ二百五十七章ノ誤

明治二十一年十月廿五日版 權 屆
 明治二十一年十月廿五日印 刷

版 權 登 録

版 權 所 有

著 作 者 大 阪 府 天 王 寺 警 察 署

印 發 刷 行 者 兼

大 阪 市 平 民

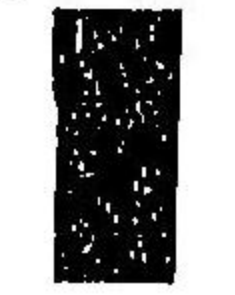
前 田 菊 松

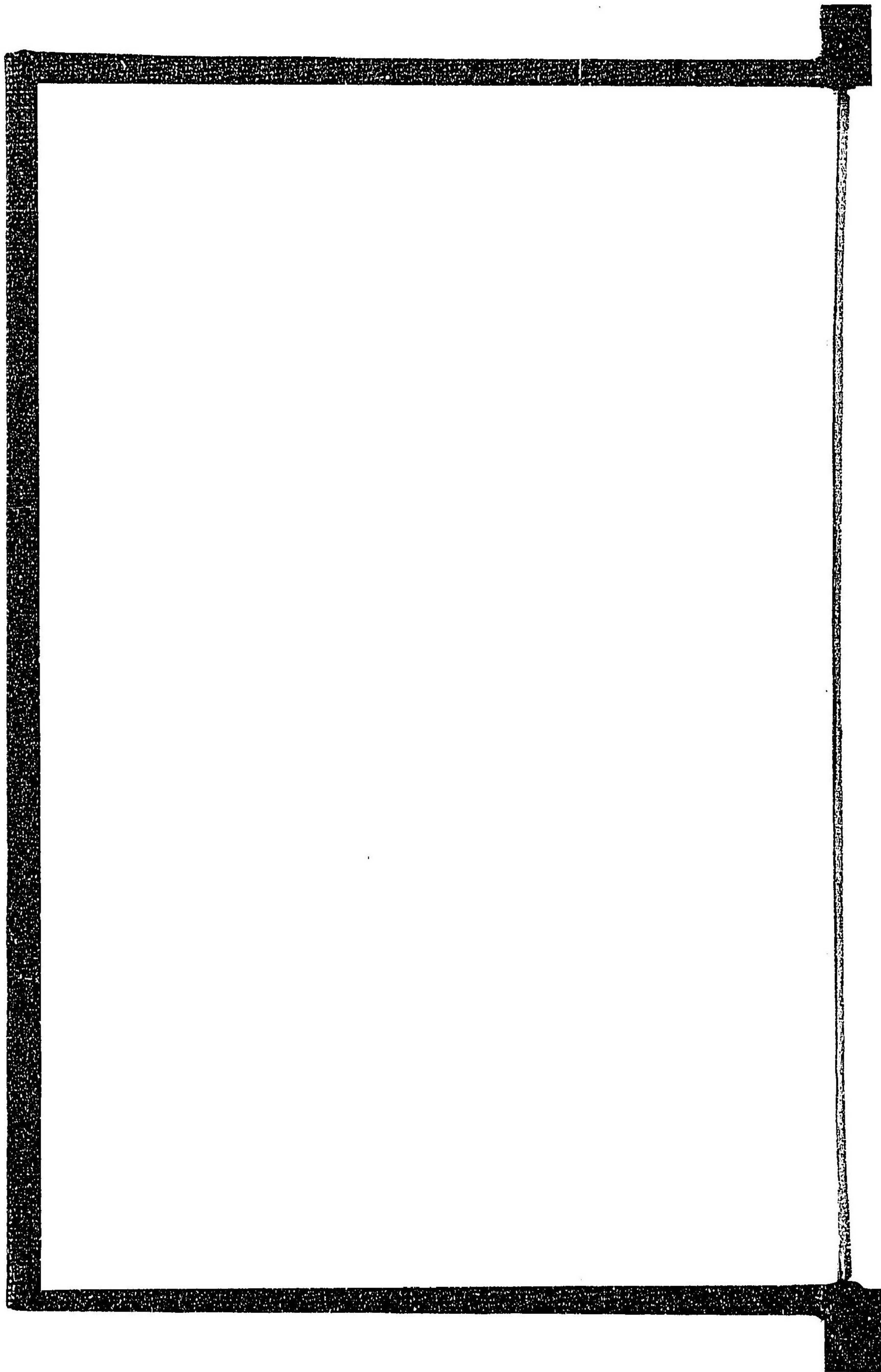
米 區 備 後 町 五 丁 目
 十 三 番 地

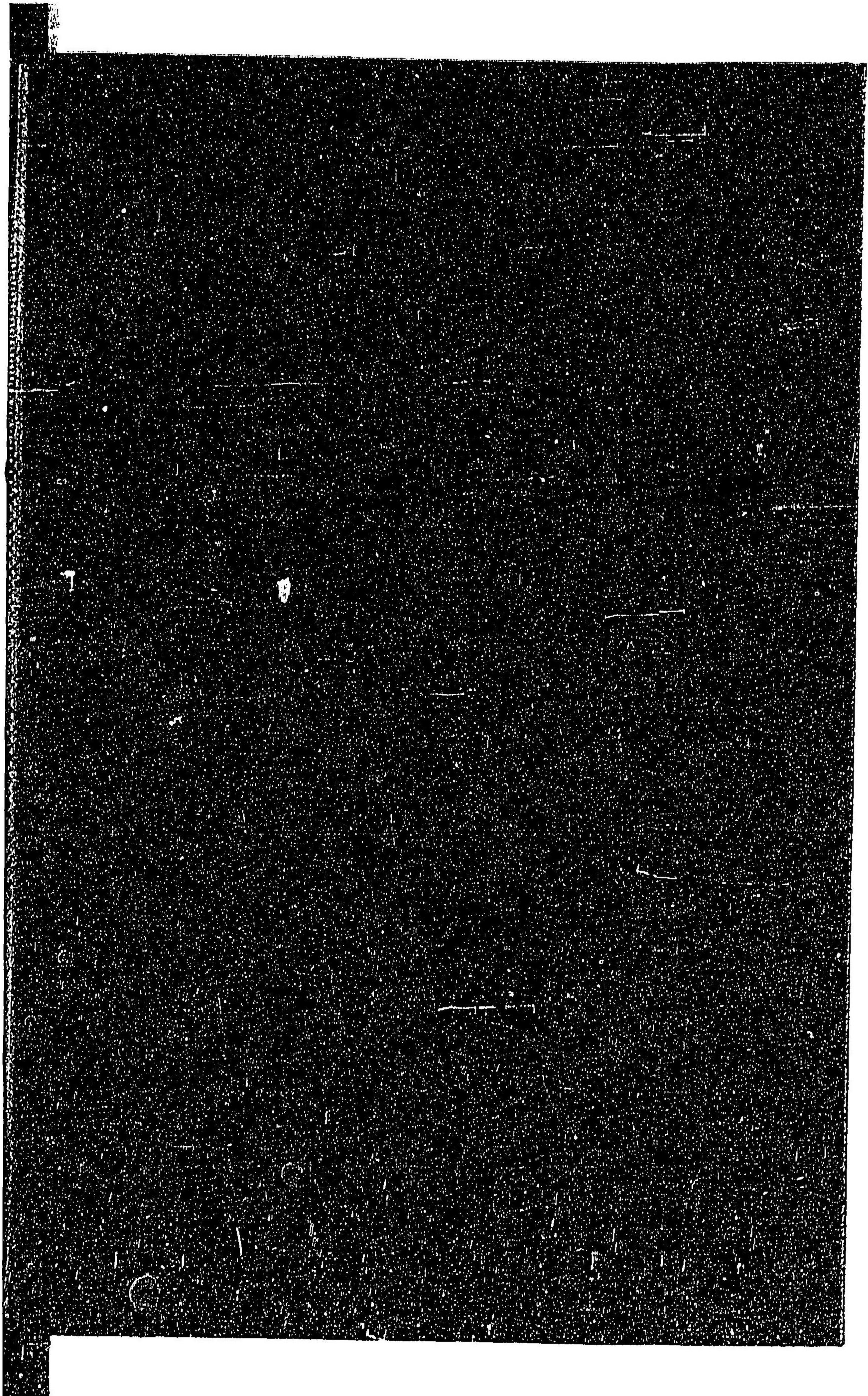
79-24



Faint vertical text or markings running down the center of the page, possibly bleed-through from the reverse side.







030966-002-5

CZ-5-012

現行明治類典

大阪府天王寺警察署／編

M21-23

BBC-0334

